

復習シート 第三学年 国語



| | | |
|---|----|----|
| 組 | 番号 | 名前 |
| | | |

1

次の問題を解きなさい。

田中さんは、国語の授業で「将来の夢」というテーマでスピーチをすることになりました。田中さんのスピーチと、それを聞いた後の渡辺さんと伊藤さんの感想を読み、あとの問いに答えなさい。

レベル9～11

私の将来の夢は、英語の通訳になることが夢です。外国の人が日本に来たときに私が日本語を訳して伝えたいと思っています。

私は小学生のときに父親の仕事の都合でアメリカに住んでいました。初めは英語が全く分からず、友達もできず、さびしい毎日を送っていました。私の様子を見かねたクラスメイトのケイティが笑顔で「コンニチハ。」と話しかけてくれました。ケイティの祖母は日本人でした。ケイティは私のために祖母に日本語を教わり、私に声を掛けてくれたのです。ケイティとは、しばらくは「コンニチハ!」「Hello!」のあいさつのやり取りだけでしたが、徐々に私が英語を理解するようになり、会話ができるようになりました。そして、ケイティの思いやりに感謝した私は将来通訳という仕事に就きたいと考えました。私のように英語が理解できずにさびしい思いをしていたり、英語は苦手だけれど世界のことを知りたいと思ったりしている人の手助けをしたいと思ったのです。そういった人たちの力になることで、あのとき話しかけてくれたケイティの気持ちに恩返しをしたいと考えています。

私は今中学2年生で、英語を学んでいます。外国語の勉強は難しいし、夢を叶えられるのか、という不安もあります。しかし、あのときの「コンニチハ」に助けられた嬉しさが私を支えています。これからも努力を続け、必ず夢を叶えたいと思います。



〈渡辺さんの感想〉

スピーチの始めに自分の夢を話した後、なぜその夢を持ったのかについて経験をもとに話していたので、説得力がありました。最後に、不安に打ち勝つための心の支えについて話していたので、夢への思いの強さが印象に残りました。自分が伝えたいことを繰り返し述べるような話の組み立て方は効果的だと感じました。

〈伊藤さんの感想〉

田中さんが具体的な経験を詳しく述べていたので、なぜ通訳になりたいのかがよく伝わってきました。言葉が分からず、周りの人とコミュニケーションが取れないさびしさは私も海外旅行をしたときの経験から想像できました。その環境の中で、通訳という夢を持ち、努力を重ねている田中さんはすてきだと思いました。

【スピーチの工夫について着目した点を理解する問題】

- 1 渡辺さんと伊藤さんの感想に対して先生が述べた言葉として、最も適切なものを後の選択肢からそれぞれ一つ選びなさい。
- 2 田中さんの言葉の調子や間の取り方、話す速度に着目することができていますね。
- 3 田中さんの経験に着目し、自分の経験と結びつけて話の内容に共感することができていますね。
- 4 田中さんの言葉遣いや語句の選び方が適切かどうかを考えることができていますね。
- 5 田中さんのスピーチの構成がどのように工夫されているのかを考えることができていますね。

渡辺さんの感想について述べた言葉・・・

伊藤さんの感想について述べた言葉・・・

【文を推敲してよりよい表現にする問題】

- 1 田中さんのスピーチ原稿の一段落目には、主語述語のねじれのある文があります。その一文を正しく直して書きなさい。

復習シート 第二学年 国語



| | | |
|---|----|----|
| 組 | 番号 | 名前 |
|---|----|----|

1 次の文を読んで後の問題に答えなさい。

田中さんは、生徒会による他県との交流会で、埼玉県を紹介する内容について、プレゼンテーションソフト（発表機器）を使って発表をしました。次はその【発表内容の一部】です。これらを読んで、後の問に答えなさい。

| | | |
|----|----------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 順番 | スライド資料 | 発表原稿 |
| 1 | | <p>私は、埼玉県のマスコット「コバトン」を紹介します。こちらの資料をご覧ください。</p> <p>「コバトン」は、平成十六年に埼玉県で開催された「第五九回国民体育大会」をアピールするために一般から募集された「マスコットイメージ」から生まれました。応募総数七九五点の中から選ばれた作品はデザイン補作され、現在私たちが知っているコバトンのデザインとなったのです。</p> |
| 2 | <p>小峯昇氏撮影</p> | <p>モチーフとなったのは、県民の鳥に指定されている「シラコバト」です。シラコバトはハト科に属し、首に黒い横線が入っているのが特徴で、主に本県の東部地域を中心に生息しています。</p> |
| 3 | <p>シラコバト × バトン</p> | <p>デザインが決まったので、今度は親しみやすい愛称を募集しました。応募総数一七四七一通の中から選ばれたのが「コバトン」でした。命名の趣旨は「彩の国まごころ国体のマスコットとしてあちこちを軽やかに飛び回る愛らしいシラコバトは、人から人へ、大会から大会へ、みんなの熱意と真心をつなぐバトンのような存在」ということでした。「シラコバト」と「バトン」をかけて「コバトン」なのです。</p> |
| 4 | <p>資料Aor 資料B</p> | <p>こうして誕生したコバトンは、国体のPR活動に奮闘し、国体を成功させるとともに、マスコットとしても人気者になりました。国体終了後、コバトンの存続を望む声がたくさん挙がり、平成十七年、正式に「埼玉県のマスコット」となったのです。コバトンは今も埼玉県、全国を飛び回り、地域を、人と人を、心と心をつなげてくれています。</p> |

